

## 学校便り

第297号  
平成24年5月1日練馬区立光が丘第八小学校  
校長 鈴木隆志

## 風と緑と光と笑顔

校長 鈴木隆志

## ◆子の髪の 風に流るる 五月来ぬ（大野 林火）

風薫る五月です。校庭に吹く風も爽やかです。元気いっぱい遊んでいる光っ子たちの髪が、風流れて楽しそうです。鯉のぼりも五月の風に乗って、空を泳いでいます。風を切って、ツバメたちも渡ってくることでしょう。思えば去年は被災地に帰ってきたツバメたちはどうしていたのでしょうか。今年は帰ってくるのでしょうか。

新年度が始まり一ヶ月が経ちました。1年生は6年生と一緒に登校しています。対面式や1年生を迎える会も終わり、全校朝会や集会、避難訓練などに一緒に参加しています。光っ子の一員として、すっかり溶け込んでいます。

## ◆万緑や 深きみどりに 薄みどり（詠み人知らず）

木々の緑がきれいです。よく見ると、一枚一枚の葉の色が違います。色にはそれぞれ素敵な名前が付いていて、微妙な色の違いを表現しています。緑、黄緑、深緑、薄緑、花緑青、翡翠色、緑青色、青緑、若草色、若芽色、若菜色、若苗色、草色、苔色、苗色、若葉色、松葉色、夏虫色、青丹、萌黄、萌葱色、鶉萌黄、淡萌黄、薄萌葱、柳色、柳染、裏葉柳、山葵色、白緑、若竹色、老竹色、千歳緑、常盤色、常盤緑、木賊色、若緑、浅緑、……。 「緑」も一括りにはできません。濃淡や明暗の違いから、それぞれに名前が付いているのです。

子供も同じです。一括りに「子供」なのではなく一人一人が違った人間です。違って当たり前。私たちは、光っ子の一人一人を認め、大切に育てていきます。

## ◆あらたうと 青葉若葉の 日の光（松尾 芭蕉）

「奥の細道」の旅で芭蕉が詠んだこの句は、地名の「日光」に太陽の光をかけた技巧的な句です。「あらた（と）うと」は、「ああ、なんと尊いことだろう」という意味です。

谷川俊太郎さん作詞の校歌にもあるように、光っ子は「ひとりひとりが ひかりのこども」です。  
 <♪おひさまの みえないゆびが ともだちの ほおをくすぐる あなたとぼくと わたしときみと  
 ひとりひとりが ひかりのこども みんなでつくる 光が丘第八小学校♪>

光八小は、「〇〇するゾウ」のゾウさんの学校です。「頑張るゾウ」という思いは尊いものです。私たちは、光の子供・光っ子たちの一人一人の頑張りを応援していきます。

## ◆明るくて いつも笑顔の 光っ子（本校6年児童）

光八小には「見上げるもの」が三つあります。一つはカリオンの時計塔がある校舎です。二つ目は光っ子たちを優しく正しく導く教員たち、職員たちです。もう一つが6年生たちです。6年生たちは光っ子たちのリーダーとして大活躍をしています。光八小のよき伝統を見事に引き継いでいるのです。

6年1組のクラス目標は「みんながつくる日本一の笑顔のクラス」です。わかば5組（6年生）のクラス目標は「めざせ！ 笑顔でやさしい わかばのリーダー」です。「笑顔」がキーワードです。私たちは、光っ子全員の笑顔かがやく学校となるよう、「チーム八小」として頑張ります。